

高島市長の新たなウォーターフロント開発

中央
ふ頭

築約50年の民間倉庫等に5億円

移転補償

採算度外視の税金投入を批判

宮本秀国市議

日本共産党の宮本秀国市議は10月8日、福岡市議会の決算特別委員会総会で中央ふ頭の再整備問題について高島市長を追及しました。



市議会決算特で質問する宮本秀国市議

■コンサル試算をまともに検討せず

市は中央ふ頭で大型クルーズ客船の受け入れを増やすことを見込んで、専用バスの駐車場確保などのための再整備をすすめ、同地区にある鎮西運輸と住友倉庫九州の立ち退きと建物の移転補償をしよ

うとしています。

宮本市議は、いずれも半世紀近く経過した古い倉庫などなのに、あわせて5億円もかけて補償をし

ていると指摘。その額について、民間コンサルタントが出した試算を市港湾局がまともに検討していないのではないかと、談合の可能性もあると追及しました。

特に、鎮西運輸については移転要請の書類も日付の記録もなく、決定経過に不自然さがあることが判明しました。



■港湾開発は収支も効果も疑問

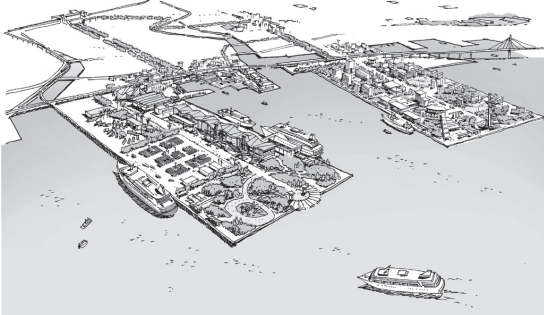
市長は「博多港長期構想」にもとづき、須崎ふ頭に「にぎわいのある街づくり」を進めようとして

いました。と

ところが日清製粉を誘致して新工場が建設されたため、その計画が思うようにいかず、中央ふ頭などの再整備に

力を入れ始めました。市は「ウォーターフロント再整備推進準備室」をもうけ、博多ふ頭と中央ふ頭を一体に開発しようとしています。

宮本市議は、外航クルーズの旅客数が市の目標通り2倍になっても経済効果は疑わしいと指摘。市の委託調査報告書からも収支や効果に疑問が投げかけられています。それでも再整備を強行すれば多額の税金投入は避けられません。宮本市議は計画の抜本の見直しを求めました。



「博多港長期構想」より将来イメージ図。手前が中央ふ頭